

<要約版>

生活・企業活動上の留意点

～治安情勢からのアプローチ～

外務省

在インド日本国大使館

在外公館警備対策官

大 内 剛

0 本日の予定

(1) 目的の確認

(2) 一般犯罪

(3) テロ、暴動

※分析は個人の見解

1 本講話の目的

- 駐在員が留意すべき犯罪情勢と政府・警察当局の対応の周知
- 企業がビジネスを進める上で留意すべき点

2 一般犯罪

2-1 概要

インドにおける2022年中の「全刑法犯認知件数」は3,561,379件(日本は601,331件)
2022年中の「刑法犯の犯罪率(人口10万人当たりの件数)」は、258.1であり、
前年の268.0から9.9ポイントの減。

インドと日本における犯罪率の比較

	インド全国	デリー準州	デリー市	日本全国	東京都	大阪府
刑法犯	258.1	1424.1	1832.6	481.3	559	783.5
殺人(Murder)	2.1	2.4	3.1	0.7	0.6	1.4
強盗(Robbery)	2.1	8.6	11	0.9	1.6	1.9
強姦性交等(Rape)	4.7	12.3	15.9	1.3	1.8	2.4
誘拐等(Kidnapping and Abduction)	7.8	26.7	34.2	0.3	0.4	0.5
窃盗(Theft)	47.3	979.6	1259.9	327.3	364.9	905.8

※インドの統計については、犯罪統計局(National Crime Record Bureau)が発行した「Crime in India 2022」を参照

※日本の認知件数等については、「犯罪統計資料令和4年1月~12月分【確定値】(警察庁刑事局捜査支援分析管理官)」を参照

※日本の人口については、「人口推計(2022年(令和4年)10月1日現在)結果の要約」(総務省統計局)を参照

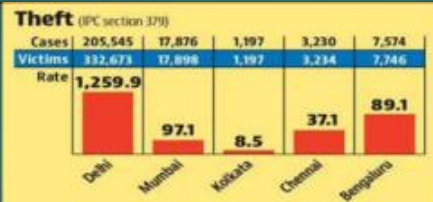
主要都市における犯罪

- 「刑法犯」の犯罪率は、デリー市が1,832.6と最も高く、ムンバイが376.3、ベンガルールが337.3とインドの全国平均258.1を大きく上回る状況。
- デリー市の「殺人」、「強盗」、「自動車盗」は、他の主要都市と比べても悪い。
- 「女性に対する犯罪」のうち、「女性への暴力事犯」はベンガルールが、「ストーカー」はムンバイが最も高い。

Total IPC crime (Rate)	Total (2022)
Delhi	1,832.6
Mumbai	376.3
Kolkata	78.2
Chennai	173.5
Bengaluru	337.3

Murder (IPC section 302)			
Rate	Cases	Victims	
Delhi	3.1	501	517
Mumbai	0.7	135	139
Kolkata	0.2	34	34
Chennai	1.2	101	103
Bengaluru	2	173	177

Robbery (IPC section 392/394/397)			
Rate	Cases	Victims	
Delhi	11	1802	1830
Mumbai	5.6	1036	1038
Kolkata	0.1	15	15
Chennai	4.5	395	395
Bengaluru	7.1	603	609



CRIME AGAINST WOMEN

Rape (IPC section 376)

Rate	Cases
Delhi	15.9
Mumbai	4.3
Kolkata	0.2
Chennai	0.8
Bengaluru	3.7

Assault (IPC section 354)

Rate	Cases	Victims
Delhi	11.7	886
Mumbai	9.6	819
Kolkata	1.9	127
Chennai	1.8	77
Bengaluru	12	488

Sexual Harassment (IPC sec 354A)

Rate	Cases	Victims
Delhi	4.8	364
Mumbai	3.9	335
Kolkata	0.4	25
Chennai	0.9	40
Bengaluru	3	120

Stalking (IPC section 354D)

Rate	Cases
Delhi	4.4
Mumbai	6.8
Kolkata	0.8
Chennai	0.3
Bengaluru	0.7

※ グラフについては、2023年12月5日Hindustan Times紙掲載のものを参照

2 犯罪情勢

2-3 一般犯罪（現状と分析）

1 現状

平日昼間、群衆が密集していない場所であれば、数値ほど危険とは感じない。

（EX 歩きスマホOK。強盗などの危機的状況はない。）

タクシー利用時のトラブルは多い（EX 過度な請求、「小銭がない」など）。

ただし、女性の一人歩きは危険。酒への薬物混入を疑う事案も。

2 分析

防犯上のマイナスの要因

○先進国の外国人

インド人の中で「外国人は、当然、我々に施し（寄付）をしてくれる人」という意識が根底にあり。

→ 外国人に対する騙しや、ぼったくりが多い。

○女性

インドの文化、都市部と農村部の教育・教養格差

→ インド人が「関係者が周りにいない」と認識した場合、女性はひどい被害に遭う可能性。
特に、農村部の者は、我々と相容れない独自の文化・倫理観を持っていることも。

3 テロ・暴動

3-1 テロ

(デリー準州内でイスラム国 (IS) のテロリストが逮捕されている)

3-2 暴動関係

暴動は1年に1回程度あり (原因: 宗派間対立、政府施策に対する不満)。



イスラム教モスク (ジャマー・マスジッド) 周辺の抗議活動 (2022.6.11 INDIA TV News)



兵士採用計画への抗議活動で燃やされた車 (2022.6.17 The Indian Express)

3 テロ・暴動

モバイルデータ通信の制限

4名以上の集会の禁止(刑訴法144条)
～警察当局に拘束される可能性～

領事メールが来たら
人混みに近づかない！

渋滞だけでなく、ネット環境の遮断も考慮

現地職員の不正

×小さな問題の放置、×過度な「相手のために」、×「群れ」の兆し



- 小さな問題こそ指導する。
- 「群れ」を作らせない
- 「文書」での警告

※ 放置は、社内の重大犯罪に
発展するかも、、、